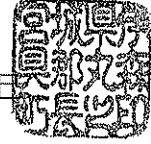




丸建第 66 号
平成19年5月7日

国土交通省道路局長殿

丸森町長 渡 辺 政



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について (回答)

平成19年4月2日付け国道企第114号で依頼のあったこのことについて、
別紙のとおり回答いたします。

担当	丸森町建設課 建設監理専門官 佐々木 電話 0224-72-3032
----	--

中期的な計画の作成にあたっての意見

宮城県丸森町長 渡辺政巳

1. 重点化を進める上で特に優先度の高い政策

道路整備の重点化を進めるうえで議論となるのが費用便益など効率性であります。丸森町など地方部では人口が少ないことから、どうしてもその数値が上がらない傾向にあります。しかし、このことはこれまで、都市部への投資が優先され、地方部の道路が長年立ち遅れたために、企業誘致や産業振興が停滞し人口流出が進んだことによるものであり、道路が整備されることにより、観光や産業の活性化がなされ都市部との交流や物資の流通が促進され、その効果が上がるものであります。

また、人口が少ないとはいえ、町の経済を支える物流、災害時の避難路、医療福祉、救急救命など国民の生活の中で憲法上保障されている健康で文化的な最低限度の生活が地方部でも享受できるように、必要最低限の整備であります。大型車がすれ違える二車線での一次改築は絶対必要であります。特に国道として認定されている道路にあつては、その役割は大きく、広域的な視点から国策上必要として管理されるものであることから、県への委任事項ではあっても、積極的に国がかかわり整備されることを望みます。

このようなことから重点化を進めるにあたっては、地方部の特に県域をまたぐ広域連携に必要な3桁国道の改良促進について、政策的見地から積極的に整備されるようお願いいたします。

2. 効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

道路整備の効率化において必要なことは、都市部よりも道路に頼らざるを得ない地方部こそ整備の必要性があるわけで、地方の意見を十分に聞き入れていただき、それを取り入れることが肝心なことだと思います。

効率性を議論するととかく地方切捨て都市優遇となりますが、これまで都市部への労働力や食糧の供給、都市住民に対する酸素の供給や癒し空間の提供など森林や農地の持つ多面的機能を維持することなど地方部の役割は大きいものがあります。

また、昨今は、グリーンツーリズムの推進や団塊世代の受け入れなどで、ますます都市住民との交流の機会が多くなっています。このことからこれからの道路整備は、単なる地方部の地域間格差の是正のみならず都市住民の利便性向上にもつながるものであります。

さらに最近、地域の自立、競争力の強化が叫ばれ、地方部においても地域の独自性など知恵をしばって他との差別化を模索し、本町においても余暇を利用した滞在型市民農園の建設や農業体験など都市部との交流により自立を図ろうとしています。交流基盤となる基幹道路が整備されないことが、大きな妨げとなっているものであります。

3. その他道路政策や道路の整備・管理全般に関すること。

道路整備については、国、県のご尽力により年々明らかに整備率の向上が図られておりますが、いまだ町民の不安を解消して満足する状況に至っていないのが現状であります。今般、道路特定財源の見直しがなされ、真に必要な道路整備は計画的に進めるとのことですが、地方の道路にあっては、本当にまだまだ整備が必要であることを再度ご認識いただきたいと思っております。

本町の場合を申し上げますと宮城県最南端に位置し、隣は福島県に隣接し、町を阿武隈川が横切っているという地理的な条件となっており、そこに113号と349号の2本の国道、10本の県道、434本の町道が走っております。

まず、はじめに、国道113号については、現在、阿武隈川を横断する舘矢間バイパス事業などを行っていただいておりますが、この先には福島県相馬市方向に向かい金山地区と大内地区があり、ともにその市街地部分が狭く、児童生徒や住民が危険にさらされているとともに、また迂回路もないことから、これまでも痛ましい交通事故の発生や火災発生時には通行止めとなるなど物流や地域生活の大きな障害となっております。

この路線は、相馬市と福島市を往来する場合に既存の国道115号の迂回路としても重要な役割を果たしており、実際に昨年の災害で115号が通行止めとなった際には、後で述べます国道349号を経由して多くの迂回車両が利用しました。地形的に115号が急峻な場所を通るため勾配がきついのに比べ113号から349号を経るルートは平坦であるため、特に積雪時の通行も容易であり、加えて消費燃料の軽減による環境悪化の防止にも寄与するものであり、各方面から早期の事業着手が望まれているものです。

次に、国道349号でございますが、前述の113号を経由した迂回路としての役割とともに国道4号が白石市越河地区の急な勾配により積雪時に通行不能となった場合には、この路線が平坦であるため、その迂回路としての機能を十分に発揮するものであります。

また、現在、阿武隈川狭窄部における浸水対策として土地利用一体型水防災事業により宅地の嵩上げ等を行っていただいておりますが、避難路となるべき国道349号が冠水する状況にあり、地域の孤立化が懸念されており、水防災対策と併せて、県の財政負担を伴わない新たな国の直轄による事業も整備手法の一つと考えていただき、一日も早い改良を願うものであります。

このように町内を走る国道と県道は、災害時の迂回路や福島、宮城、山形との広域連携による産業、観光の振興発展には不可欠な道路であり、さらにこのような県境をまたぐ道路整備は隣接市町の発展にもつながるといふ相乗効果もありますので、これまで以上に道路特定財源を確保され、迅速な対応を願うものであります。

さらに町道整備における地方道路整備交付金制度につきましては、町内430kmにも及ぶ生活道路を管理する中で、いまだ改良率が64%と低い本町にとりまして、特に救急医療など安心安全を担う主要な道路整備に欠くことのできない有効な制度でありますので、引き続きこの制度を堅持することを希望するものであります。

① 国道113号金山地区



② 国道113号大内地区



③ 国道349号阿武隈川狭窄部

